

9. 集団不適応（評価対象年齢は児童期～青年期＝7歳以上）

【児童期・思春期・青年期】

○登校/出勤困難

- ・ 病気ではないのに学校(職場)を休む
- ・ 学校(職場)のことを考えただけで緊張することがある
- ・ 登校時(出勤時)に頭痛、腹痛、気持ちの悪さなどを訴える

○登校/職場での孤立感

- ・ 学校(職場)で対象の子どもをいじめる子(人)がいる(ようだ)
- ・ クラス(職場)のみんなにバカにされていないか気にしている(ようだ)
- ・ 学校(職場)でみんなから嫌われている(ようだ)

10. 社会的引きこもり（評価対象年齢は青年期＝16歳以上）

【青年期】

- ・ 身体的疾患や精神障害(統合失調症・うつ病)などが無いのに、施設や施設内の自分の居室から出ることができず、社会的活動に参加していない

11. 排泄問題（評価対象年齢は幼児期[5歳以上]・児童期＝5歳～10歳）

次のような症状があるかどうかを評価してください。幼児については5歳以上を対象とする。

【幼児期(5歳以上)・児童期】

- ・ 睡眠中の無意識の排尿(夜尿・おねしょ)がしばしば見られる
- ・ トイレではなく、下着の上や床の上など本来排便すべきでない場所で排便すること(遺糞症)が、月に1回以上あり、それを3ヶ月以上繰り返している

12. 摂食障害傾向（評価対象年齢は児童期～青年期＝7歳以上）

いわゆる拒食症、過食症の症状があるかどうかを評価してください。単純な食べ物の好き嫌いや食物アレルギーは対象外です。

【児童期・思春期・青年期】

- ・ 「体重が減少しているときでも、現在の体重が増加することに対して恐怖がある」、「標準体重に満たない場合も、自分自身の体重を多すぎると感じる」などの理由で、必要量よりも少ない食物しか摂取せず、極度の体重減少をきたしている(神経性無食欲症～いわゆる拒食症)。食物の過量摂取後、嘔吐や利尿剤、下剤等を用いた食物の排泄を試みる場合もある
- ・ 過度の飲食を行った後、嘔吐、下剤・利尿剤・薬物などによって強制的な排泄を行う、あるいは過度の運動・絶食によって飲食行為を相殺するなどの症状(神経性大食症～いわゆる過食症)が継続している

13. 睡眠問題（評価対象年齢は児童期～青年期＝7歳以上）

次のような、睡眠に関する各種の症状を呈しているかどうかを評価してください。

【児童期・思春期・青年期】

- ・睡眠時間が量的もしくは質的に不足し、そのために社会生活に支障をきたし、自覚的にも悩んでいる状態が、1ヶ月以上継続している(不眠症)
- ・夜間に十分な時間眠っているのに、昼間の眠気が強く、学習や仕事などの日常生活に支障をきたす状態が継続している(過眠症)
- ・夜型の生活が続くなどの原因で、通常の時刻に眠り望まれる時刻に起床するというリズムに戻すことが困難となり、日中の行動や心理状態とかかわりなく、朝方まで入眠できず、いったん入眠すると遅い時刻まで起きられない。逆に、夕方になると強い眠気を覚え起きていられず、早朝に覚醒してその後再入眠することができない、などの症状が継続している(概日リズム睡眠障害)
- ・睡眠中に大きないびきをかき、呼吸が停止するため、熟睡感の欠如や中途覚醒が発生し、さらにこうした睡眠の質的低下のため、昼間の強い眠気(過眠)、気力や集中力の低下をもたらす状態が継続している(睡眠時無呼吸症候群)

14. 言語能力の発達遅延・障害（評価対象年齢は幼児期～青年期＝2歳以上）

言語能力の発達遅延については、以下の年齢別の言語能力の目安を参考に、これより著しく遅れているかどうかを評価してください。

また、言語能力障害については、構音障害や吃音を考慮してください。

【幼児期・児童期・思春期・青年期】

- ・以下の言語能力の目安に対し、著しい発達の遅れが見られる

※年齢別の言語能力の目安

1歳	1歳半	3歳	5～6歳	7歳	10歳以上
・大人の会話の調子や発音をまねる	・パパ、ママ以外に意味のある単語が3語言える ・一語文が使用できる	・簡単な質問が理解できる ・二語以上の文章が話せる ・語彙が飛躍的に増加する	・基本的な文法が完成する ・内言(音声を伴わない内的言語)が発達する	・書字が発達し文字が書けるようになる	・抽象的思考能力が発達し、論理的な文章を記述、発現できるようになる

- ・発音器官の器質障害(口蓋裂など)により、あるいは器質障害を伴わずに、特定の音をほぼ一貫して誤って発音する(構音障害)
- ・話すときの最初の音を「ぼ、ぼ、ぼぼ、ぼくは・・・」というように何回も繰り返したり、「ぼおーーくは・・・」と引き伸ばしたり、「・・・・ぼっく」と、音がすぐには出なかったりする(吃音)

15. 知的障害（評価対象年齢は幼児期〔3歳以上〕～青年期＝3歳以上）

次のような状態にあるかどうかを、総合的に評価してください。幼児については3歳児以上を評価の対象としてください。

【幼児期（3歳以上）・児童期・思春期・青年期】

- ・ 知能指数がおおむね70までであり（知能検査を受けている場合）、総合的に見て、日常生活能力（自立機能、運動機能、意思交換、探索操作、移動、生活文化、学習等）の到達水準が、同年齢児の日常生活能力より劣るため、何らかの特別の援助を必要とする状態にある

16. 施設内における他児へのいじめ（評価対象年齢は幼児期〔3歳以上〕～青年期＝3歳以上）

「施設内」における他の児童へのいじめ行為で、継続的に行っているか否かを評価のポイントとしてください。幼児については3歳児以上を評価の対象としてください。

【幼児期（3歳以上）・児童期・思春期・青年期】

- ・ 施設内において、1人ないし複数の特定児童に対し、継続的にいじめ行為を行っている（いじめの対象が変化する場合も含めます）

17. 施設内における他児からのいじめ（評価対象年齢は幼児期〔3歳以上〕～青年期＝3歳以上）

「施設内」において、他の児童から継続的にいじめ行為を受けているか否かを評価のポイントとしてください。なお、8. 集団不適応に含まれるいじめは「施設外」で受けるものとして、本項目と区別してください。幼児については3歳児以上を評価の対象としてください。

【幼児期（3歳以上）・児童期・思春期・青年期】

- ・ 施設内において、特定の児童（単独・複数問わず）から、継続的にいじめ行為を受けている（いじめの児童が変化する場合も含めます）

問14 日常生活能力の発達

- ・ 該当年齢の発達の目安をご参照の上、当該児童の日常生活能力の評価をお願いします。

生後6ヶ月～	★生活のリズムの確立
14～17ヶ月頃	★コップで飲む
18～20ヶ月頃	★スプーンを使う
2歳過ぎ頃	★上着などを脱ぐ
	★手伝ってもらって歯を磨く
3歳過ぎ頃	★Tシャツを着る
3歳～3歳半頃	★一人で服を着る
4歳～4歳半頃	★一人で歯を磨く
6歳6ヶ月～8歳5ヶ月	★ひとりで風呂に入れる（洗髪もひとりでできる）
	★身近な事柄について簡単な文章（日記、作文など）が書ける
	★将棋、トランプなど複雑なルールの遊びができる
	★「横断禁止」「危険」などの標識がわかり、指示に従える
8歳6ヶ月～10歳5ヶ月	★いわれればひとりで部屋の掃除がきちんとできる （親が手伝わなくてもまかせることができる）
	★注意されなくても人の話や説明を終わりまで静かに聞くことができる
	★慣れた所なら電車やバスを使ってひとりで行ける（切符が買える）
	★年下の子どもの世話や子守などを安心してまかせられる
	★掃除機、洗たく機などの家庭電気器具が扱える
10歳6ヶ月～	★わからないことばや表現を辞書で調べることができる
	★ボタンつけができる
	★食事作法をきちんと守れる （音をたてたり、行儀の悪い姿勢など、人に不快な印象を与えない）
	★相手の立場を考えて話すことができる
	★おとなの指導者がいなくても、グループで会合やハイキング、スポーツなどの計画をたてて実行することができる
★はじめての所でも、人に道をたずねたり、地図で調べてひとりで目的地へ行ける	

問15 知能および発達検査結果

- ・ 該当年齢の知能および発達検査結果について最新の値および検査種類を記入してください。
- ・ 複数の検査結果に関する情報を有している場合には、いずれか1つを選択の上記入してください。

問16 被虐待体験の有無

- ・当該児童が、虐待を受けた経験をもっているかどうか、施設で把握できている範囲で、その有無を回答してください。「1. 有り」の場合は、「問16-1 虐待の種類」についても、施設で把握できている範囲で回答してください。

問16-1 虐待の種類【被虐待体験有りの場合】

- ・当該児童が虐待を受けた種類を選択肢1～6の中から選んでください（複数回答）。

問17 定期的に通院している疾患、障害名および通院回数等

- ・当該児童が定期的に通院している疾患・障害の有無を選んでください。
- ・「2. 有り」の場合、当該児童の主な疾患名・障害名を以下の選択肢の中から医師の診断に基づいたものの番号（1～45）を選んでください（主な疾患、障害名3つまで回答）。ここに示した疾患・障害以外の疾患・障害を有する場合は、「46. その他」を選んだ上で、空欄に具体的な疾患名・障害名を記入してください。

分類	疾患名・障害名
I. 感染症及び寄生虫症	1. 腸管感染症
	2. 結核
	3. 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患
	4. 真菌症
II. 新生物	5. 胃の悪性新生物
	6. 結腸及び直腸の悪性新生物
	7. 気管、気管支及び肺の悪性新生物
	8. その他の悪性新生物
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	10. 甲状腺障害
	11. 糖尿病
V. 精神及び行動の障害	12. 精神分裂病、分裂病型障害及び妄想性障害
	13. 気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）
	14. 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
VI. 神経系の疾患	15. 神経系の疾患
VII. 眼及び付属器の疾患	16. 白内障
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	17. 耳及び乳様突起の疾患
IX. 循環器系の疾患	18. 高血圧性疾患
	19. 心疾患（高血圧性のものを除く）
	20. 虚血性心疾患
	21. 脳血管疾患
X. 呼吸器系の疾患	22. 急性上気道感染症
	23. 肺炎
	24. 急性気管支炎及び急性細気管支炎
	25. 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患
	26. 喘息
X I. 消化器系の疾患	27. う蝕
	28. 歯肉炎及び歯周疾患
	29. 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍
	30. 胃炎及び十二指腸炎
	31. 肝疾患
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	32. 皮膚及び皮下組織の疾患

分類	疾患名・障害名
XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	33. 炎症性多発性関節障害
	34. 関節症
	35. 脊柱障害
	36. 骨の密度及び構造の障害
XⅣ. 尿路性器系の疾患	37. 糸球体疾患, 腎尿細管間質性疾患及び腎不全
	38. 前立腺肥大(症)
	39. 乳房及び女性性器の疾患
XⅤ. 妊娠, 分娩及び産じょく	40. 妊娠中毒症
XⅥ. 周産期に発生した病態	41. 周産期に発生した病態
XⅦ. 先天奇形, 変形及び染色体異常	42. 先天奇形, 変形及び染色体異常
XⅧ. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	43. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
XⅨ. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	44. 骨折
XXⅠ. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	45. 歯の補てつ
	46. その他

<通院中の診療科>

- ・ 選択した疾患・障害に対して、定期的に通院している診療科を以下の選択肢の中から番号を選んでください。

診療科名	1. 内科	診療科名	14. 形成外科	診療科名	27. 泌尿器科
	2. 呼吸器科		15. 美容外科		28. 性病科
	3. 消化器科(胃腸科)		16. 脳神経外科		29. こう門科
	4. 循環器科		17. 呼吸器外科		30. リハビリテーション科
	5. 小児科		18. 心臓血管外科		31. 放射線科
	6. 精神科		19. 小児外科		32. 麻酔科
	7. 神経科		20. 産婦人科		33. 歯科
	8. 神経内科		21. 産科		34. 矯正歯科
	9. 心療内科		22. 婦人科		35. 小児歯科
	10. アレルギー科		23. 眼科		36. 歯科口腔外科
	11. リウマチ科		24. 耳鼻いんこう科		37. その他
	12. 外科		25. 気管食道科		
	13. 整形外科		26. 皮膚科		

<通院回数・服薬状況>

- ・ 選択した疾患・障害に対して、過去1年間の通院回数を記入し、服薬の有無を選んでください。

問18 精神科への入院経験

- ・ 当該児童の精神科への入院経験の有無を選んでください。

問19 精神疾患・精神障害

- ・ 当該児童の精神疾患・精神障害の状況について、医師の診断、または、疑いがあるかどうかを回答してください。「1. 診断有り又は疑い有り」を選んだ場合は、次の質問「問19-1 主な精神疾

患・精神障害の状況」にも回答してください。

問19-1 精神疾患・精神障害の種類状況【診断有り又は疑い有りの場合】

- ・当該児童の精神疾患・精神障害について、「1.発達障害系」、「2.行動障害系」、「3.不安障害系」、「4.気分障害系」、「5.その他の精神障害」ごとに、選択肢〔1.確定診断有り／2.疑い有り／3.判断困難〕の中から1つだけ選んで現在の評価をしてください。
- ・精神疾患・精神障害の区分ごとの内容は、下表のとおりです。

発達障害系	1. 精神遅滞	学習障害	気分障害系	28. 大うつ病性障害		
	2. 読字障害			29. 気分変調性障害		
	3. 書字表出障害			30. 双極性障害		
	4. 算数障害			その他の精神障害	31. 異食症	摂食障害
	5. その他の学習障害				32. 反芻性障害	
	6. 自閉性障害	33. 神経性無食欲症				
	7. レット障害	34. 神経性大食症				
	8. 小児期崩壊性障害	35. その他の摂食障害			排泄障害	
	9. アスペルガー障害	36. 遺糞症				
	10. その他の広汎性発達障害	37. 遺尿症				
	11. 発達性協調運動障害	38. その他の排泄障害		39. 選択性緘黙		
	12. コミュニケーション障害(音韻障害、吃音等)	40. 常同運動障害		41. 性障害及び性同一性障害		
行動障害系	13. 注意欠陥・多動性障害	42. 睡眠障害		43. 人格障害		
	14. 行為障害	44. 統合失調症		45. その他の精神障害		
	15. 反抗挑戦性障害					
不安障害系	16. パニック障害	恐怖性障害				
	17. 全般性不安障害					
	18. 強迫性障害					
	19. 外傷後ストレス障害					
	20. 単一恐怖					
	21. 対人恐怖					
	22. その他の恐怖性障害					
	23. 分離不安障害					
	24. 反応性愛着障害					
	25. 解離性障害					
26. 転換性障害						
27. その他の身体表現性障害						

問20 障害者手帳の所持

- ・当該児童の障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳(知的障害者福祉手帳)、精神障害者保健福祉手帳）の所持の状況について、それぞれ選択肢1～5の中から1つだけ選んでください。療育手帳の障害程度区分は自治体によって異なりますが、ここでは所持している場合には「重度、中度、軽度」の3区分とします。「最重度」区分が存在する場合は「重度」に含めてください。

問21 アルバイトの実施状況（中学生以上の児童のみ回答）

- ・ 当該児童のアルバイトの実施状況について回答ください。本設問は、調査対象が中学生以上の児童である場合のみ回答してください。

問22 希望している進路（中学生以上の児童のみ回答）

- ・ 調査時点において当該児童が希望している進路を記入してください。本設問は、調査対象が中学生以上の児童である場合のみ回答してください。

問23 家族への支援状況

- ・ 当該児童の家族等に対する面接や家庭訪問など継続的な家族支援の状況の有無について回答してください。

問24 不適切な養育を受けた子どもの行動チェックリスト

- ・ 調査票に記述されている回答方法をご確認の上、全ての項目に回答してください。

IV 児童のケアニーズ 等

問25 ケアニーズの充足状況に関する評価

- ・当該児童の施設内におけるケアニーズの充足度についての評価を回答してください。その際、現状の職員数、施設状況等といったサービス提供体制上の制約がない場合を想定して評価ください。
- ・「2. あまり充足されていない」または「1. 充足されていない」を選んだ場合は、問25-1および問25-2をお答えください。
- ・「4. 充足されている」または「3. ほとんど充足されている」を選んだ場合は、問26へお進みください。

問25-1 不足しているケアの内容

- ・当該児童にとってさらに充実していくべきであると考えるケア内容として優先順位の高いものを3つまで回答ください。

問25-2 ケアニーズ充足度を高める環境

- ・例えば職員数の増加や職員のスキルアップなど、当該児童のケアニーズの充足度を高めることができると考えられる環境の整備について、自由に記入してください。

問26 睡眠習慣の状況

- ・当該児童の最近1ヶ月間の睡眠の様子について、それぞれ「1. ほとんどいつも（週に5～7日）」、「2. ときどき（週に2～4日）」、「3. まれ（週に1日以下）」、「4. ない又は年齢的に当てはまらない」の中から当てはまるものを1つだけ選んで✓チェックしてください。
- ・「5. 寝床に入る時刻」以降では、空欄に該当する時間や回数を記入してください。不明の場合には、不明の欄に✓チェックしてください。
- ・睡眠習慣について出来る限り実態を把握して回答してください（不明の欄へのチェックは極力避けてください）。

